



パラオ通信

No. 19 /2/16/2020

JICA 海外協力隊 SV 天野久雄

今回はパラオの公立小学校について話します。公立の小学校はおよそ 17 校あります。同僚の人たちに聞いたのですが、正確には知らないという返事ばかりでした。パラオの南の方、最南端には船で 2 日ほどかかる小さな島々があります。ソンソール島、プロアナ島、トビ島などです。そこに住む人たちはパラオ語を話しません。電気がない島もあり、ほとんどの人が行ったことないそうです。だから小学校がいくつあるか知らないということでした。

私たちはそれらを除外して巡回指導します。15 の公立小学校と 1 つの高等学校(パラオ高校)です。この「パラオ通信」では、私たちがふだん巡回している学校に限ります。では本題に入りましょう。

日本は、校舎や建物の建設に資金援助をしています。

パラオの小学校は、どれもきちんと整備されています。教室の床はタイル貼りで清潔です。ホワイトボードや机、戸棚も充実しています。雨季には激しい雨が降りますが排水もしっかりできています。プレイグラウンド(運動場)や中庭は芝生張りで、ぬかるみで困ることはありません。アメリカや日本、台湾などの国々が資金援助をしています。

たとえばカヤンゲル島(カヤンゲル環礁)の小学校は、日本の資金援助で 2014 年に改修されました。学校名が「P J F 小学校」となっています。パラオ・ジャパン・フレンドシップの略形で、パラオと日本の友好を意味しています。そのほかの学校も日本の資金で改修や建設がされていて、校舎の壁にそれを記したプレートがはめ込まれています。



床はタイル貼りで清潔です。
教室内では素足です。
アイメリーク小学校(バベルダオブ島)



排水施設が整備されています。
プレイグラウンドは芝生張りです。
PJF 小学校 (カヤンゲル環礁)

バベルダオブ島にあるマルキョクやガエロンの小学校には、木製の大きな遊具が取り付けられています。日本とアメリカの支援団体が共同で取り付けました。昼休みや放課後に、子供たちは楽しそうに遊んでいます。今後はほかの小学校にも設置する予定だそうです。JICA(ジャイカ)事務所の近くにある公園にもあります。

パラオにはバスや鉄道などがありません。地方の小学校では、大半の子供たちがスクールバスで通学します。これにも日本は援助をしています。昨年の11月には、新しいスクールバスの贈呈式が教育省で行われました。



日本とアメリカの支援団体が寄付をした遊具
マルキョク小学校(バベルダオブ島)



日本が寄贈したスクールバス
アイメリーク小学校(バベルダオブ島)

校舎や設備だけでなく、授業で使う教育機器も充実しています。

どの小学校にもパソコンやプロジェクター、コピー機が配備されています。先生たちはノートパソコンを個人用に、生徒はクラス単位でタブレット型のコンピュータを使えます。教科書や教材だけでなくマーカーペンやメモ用紙、クリップまで教育省から配布されます。先生たちは計算ドリルやフラッシュカードなどを自分で作ります。だから授業で使う教材が不足することはありません。日本は印刷機や教育機器にも資金援助をしています。



先生たちは授業で使う教材や教室掲示を作ります。左の写真はミュージズ小学校で使われている段ボール板のフラッシュカードです。右は生徒用タブレットコンピュータを使ったGBハリス小学校の授業です。

学校で使う木製備品のほとんどは、教育省の裏手にある作業場でスタッフが作ります。戸棚やテレビ台をはじめ、ベッドまで作ります。小さなメモ書きだけで作る職人さんたちです。スタッフの一人は日本語が少し話せます。日本へ行って木工技術を学んだそうです。「パラオは空気が乾燥していてペンキが早く乾く。雪も降らないので作業がしやすい」と言っていました。右の写真は小学校の擁護室で使うベッドです。



これらが学校にあるもの、無いものです。

公立の小学校にはランチルームがあります。全校の生徒がそこで昼食をとります。パラオ高校にもカフェテリアという大きな建物があります。日本でもランチルームが見られますが、教室で給食を食べる小学校の方が圧倒的に多いでしょう。日本では弁当持参の学校もあります。

メニューはシンプルですが、教育省の栄養士が献立を考えて指示しています。地方の小学校では、地元の人から魚やカニ、バナナの差し入れがあります。

水タンクも必ずあります。パラオは朝から暑いので、家から持ってきた水筒の水だけでは足りません。子供たちは水を詰め直して教室で飲みます。フィルターを通して浄化した雨水です。先生たちもこのタンクの水を飲みます。パラオでは雨季はもちろん、乾季でもよく雨が降ります。パラオの人たちはこれを飲み水に利用しています。



清潔できれいなランチルーム
アイメリーク小学校(バベルダオブ島)



飲み水タンク
ミュージズ小学校 (アラカベサン島)

ブレイクタイムがあります。10時前後の20分間の休憩時間のことで、スナックタイムとも言われます。子供たちは家から持ってきたスナックを食べます。

サンドイッチやクッキー、市販のポテトチップスなどです。ブドウやリンゴ、オレンジなどを食べる子もいます。疲れた脳への糖分の補給は学習効果があると、医学的に証明もされているそうです。理想的なリラックスタイムです。日本の小学校では考えられないことです。



左はコロール小学校の様子です。毎日がこのような風景です。パラオの中でいちばん町の中にある小学校なので、スナック類が豊富です。手作りサンドイッチもあります。

小さな島や地方の小学校では、揚げバナナやパイヤ、サトウキビを持ってくる子供もいます。でもポテトチップやクッキーなどに人気があります。

無いのは職員室です。理科室や図工室もありません。家庭科室や音楽室も。先生たちは自分の教室で仕事をします。職員のミーティングは図書室かパソコン室で済ませます。小規模校では校長室もありません。校長先は「オフィス」と表示された部屋で、事務スタッフたちと机を並べています。校長（プリンシパル）というネームプレートもありません。

パラオの小学校の先生はほとんどが女性で、30代の若い校長先生もいます。はじめのうちは、誰が校長先生か見極めるのに苦労しました。やがて、いちばん書類が積んであって乱雑な机を使っている人が校長先生と気づきました。

日本でおなじみの音楽が流れるチャイムもありません。そのかわり吊り下げたボンベやベルがあります。それを誰かが叩くのです。小さな小学校はこれで十分です。聞き慣れると、こころよく感じます。ミュージズ小はいつも決まった先生がハンマーで叩いています。毎日叩いていて耳が痛くなるそうです。労災ではないでしょうか。

ほかの学校では先生たちが、あるいは生徒たちが交代で叩くようです。



左からガラルド小学校（バベルダオブ島）、ミュージズ小学校（アラカベサン島）、マルキョク小学校（バベルダオブ島）の釣り鐘です。かなり遠くまで音が伝わります。

大規模校であるコロール小学校では、手動式ブザーを使っています。教室の棟がそれぞれ離れているのと、周囲にホテルや住宅があるからです。事務室のスタッフや校長先生、教頭先生が交代で時計を見ながらスイッチ操作をしています。簡単にプログラミングできるはずですが、パラオでは至っていません。

おわりに

昨年1月に数学スペシャリストのバネッサが、ソンソール島へ行きました。「海が荒れていて大変だった」といって、帰ってから1週間ほど休んでいました。上司から「次回（今年）はヒサオが行ってください」と、ニッコリ笑って言われました。でもまだその話がありません。

それよりも近いアンガウル島への訪問も延期されたままです。海が荒れているからです。JICA事務所に報告したら、「携帯電話が通じないので、ソンソール島へ行くときは衛星電話を持って行くように」と指示されました。楽しみにしています。もし行くことになったらこの「パラオ通信」で報告します。ご期待ください！